

寒冷地における耕作放棄地の草地化とミニ放牧技術の開発

1 中核機関・研究総括者

(独) 農業・生物系特定産業技術研究機構東北農業研究センター
梨木 守

2 研究期間

2004～2006 年度 (3 年間)

3 研究目的

東北地域において増加している耕作放棄地を有効利用する手段として、放牧利用への期待が高い。しかし、耕作放棄地は複雑地形、狭小面積で分散立地していることが多く、特に水田跡地では冷涼、積雪気象条件に加えて、高土壌水分、泥濘化しやすいなど、草の生育にとっては不良環境にある。このような条件に対して、従来の大面積、畑土壌条件を対象とした草地化技術や多頭牛群による放牧技術では対応が難しい。

このため、耕作放棄地の草地化技術及び狭小分散草地の有効放牧利用技術を開発する。

4 研究内容及び実施体制

① 耕作放棄地の草地化技術の開発 ((独) 東北農業研究センター、福島県畜産試験場)

小型GPS利用の草種適正配置による草地計画法を開発し、耐寒・耐湿性に優れるフェストロリウムを選定し、さらに放棄桑園・水田における草地造成技術を開発する。

② 狭小分散草地の有効放牧利用技術の開発 (岩手大学、(独) 東北農業研究センター、福島県畜産試験場、岩手県農業研究センター)

ストレスフリー牛群編成による放牧技術を開発する。またリレー放牧とASP(秋期備蓄)による放牧期間の延長化技術の開発、さらに子牛の放牧育成技術を開発する。

5 目標とする成果

耕作放棄地に多い複雑地形、小面積等の草地化が簡便に、かつ効率的に行うことができ、狭く、分散する土地においても高度な畜産生産を実現するミニ放牧技術の開発が期待される。